

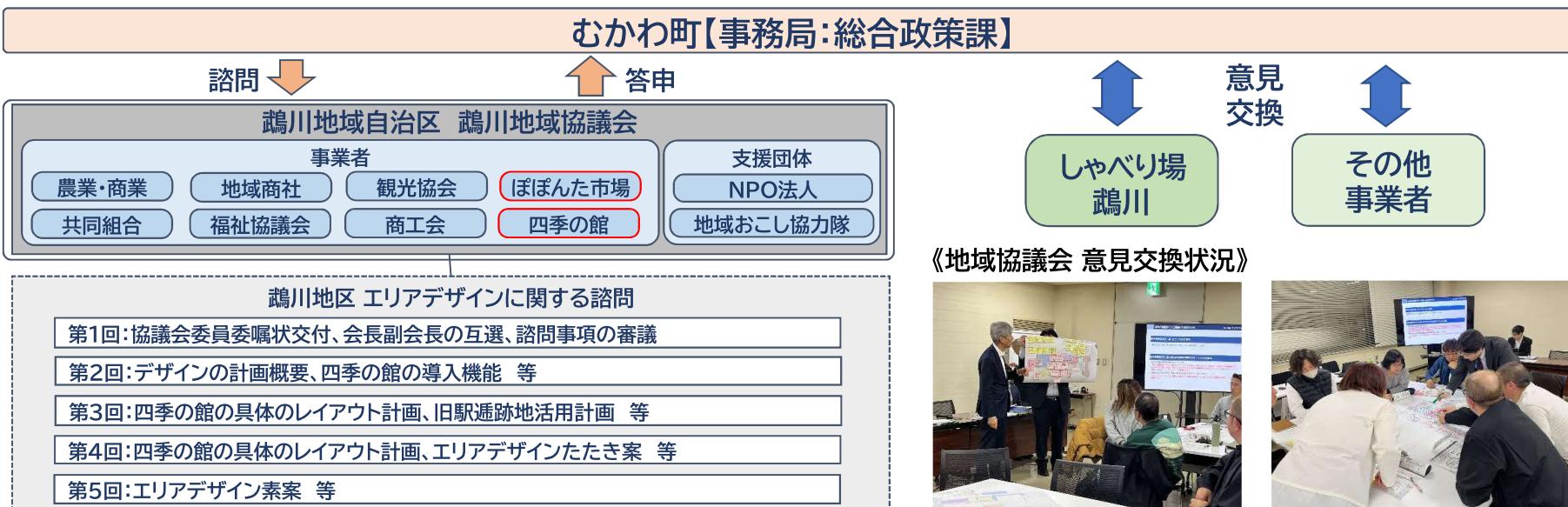
1 エリアデザインとは

地域の創造的復興の実現に向け、将来の人口減少・少子高齢化などを見据えながら、共創によりまちの魅力を磨きながら、まちなか再生の実現を目指す計画です。

2 検討対象 対象エリア 7つの拠点



4 エリアデザインの計画策定プロセス



5 エリアデザインの課題

エリアの現状・特性

人口減少高齢化

約20年～30年後には人口が約半数程度、少子高齢化が進行し、高齢化率は約50%と予測

中心市街地における低未利用地の点在

中央通り沿線において空き地、空き家、空き店舗が点在

町役場周辺に都市機能が集積、公共施設等ストックの老朽化

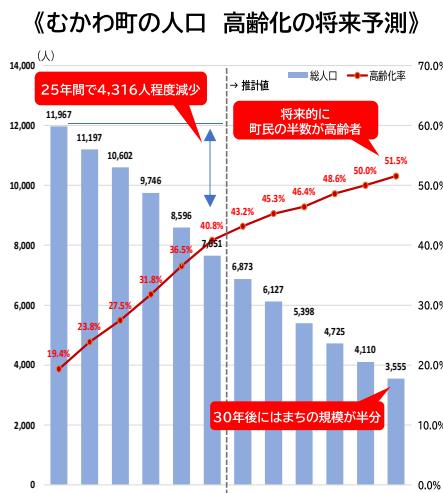
役場、道の駅むかわ四季の館等が立地、順次ストックが築50年を経過

観光入込み客数のピークアウト

被災やコロナ影響等により観光入込みが半減、回復の兆しはある

財政のスリム化

人口減少下のもと、まちのインフラや公共サービスの維持に向けて町民負担が大きくなることが懸念



出典：平成7年～令和2年：国勢調査
令和7年以降：国立社会保障・人口問題研究所

鶴川地区エリアデザインの課題設定

①好循環のまちづくりを下支えする観光交流の促進

人口減少が進行していく中、まちの中心である鶴川地区の活動を維持していくためには、町民同士、そして町民と観光客との観光交流を促進していく必要があります。

②産業活性化や観光交流の促進に向けた魅力的な拠点施設の整備

観光交流促進に向けては、観光客など域外からの需要を拡大し、多くの町民や観光客を受け入れる集客性の向上が重要です。DXやGX等の社会変革の新技術を活用しながら、安全安心に配慮しつつ、住民や事業者がまちづくりへ参画しやすい魅力的な拠点施設の整備が必要です。

③移住、定住、来訪の求心力となる、町や鶴川地区の魅力を物語るシンボル性の創出

人口減少を抑制する転出回避対策や定住化に向けて、穂別地区の「むかわ竜」と並ぶ鶴川地区のシンボル性を創出し、タウンプロモーションを推進していく必要があります。

むかわ町まちなか再生基本計画(方向性)

I 多層的な拠点づくりと好循環の創出

- 新たな視点の拠点機能創出と環境整備によるウォーカブルなまちづくり

- 復興・構成につなげる歴史的建物資材等の有効活用

II 空地・空き店舗の活用による賑わいの創出

- 空き店舗を活用した交流と活力の場整備

- 空き地の有効活用による賑わい創出の場整備

V両地区をつなぐ取組の充実・強化

- 両地区をつなぐ地域公共交通システムの充実・強化

- 両地区をつなぐヒト・コト・トキの充実・強化

<マーケットサウンディング>

- ・地方創生事業でも収益性が必要
- ・一定の事業規模と相当の魅力が必要
- ・事業の方向性や優先順位の明確化が必要
- ・パートナーになる事業者との連携が必要
- ・エリアデザインに対する町の戦略性が重要
- ・検討や運営は地元との共創が必要
- ・地域協議会等での機運醸成が必要

<関連計画>

- ・むかわ町立地適正化計画
- ・むかわ町事前復興計画
- ・むかわ町地域公共交通計画
- ・むかわ町公共施設等総合管理計画 など

6 エリアデザインの計画理念、方針コンセプト、目標値

計画理念

多核共創へのチャレンジ

人と自然とまちがつながり、輝く交流の魅力づくり



多核連携 拠点形成によるエリアの高質化

多層性 交流を通じた魅力を付加・相乗

町民主人公 町民がいてこそ輝く魅力を大事に

町民設定コンセプト

魅力的な拠り所(寄り所)の創出

ターゲットコンセプト

『町民』『町民+観光客』のための計画

導入機能コンセプト

穂別地区との交流促進

まちがまちであり続けるために人口減少を抑制

移住してくる人、住み続ける人、合わせて約2,000人を確保

共創の魅力となる交流を促進

まちづくり活動などを活性化し拠点利用者を現行の約2倍に増加

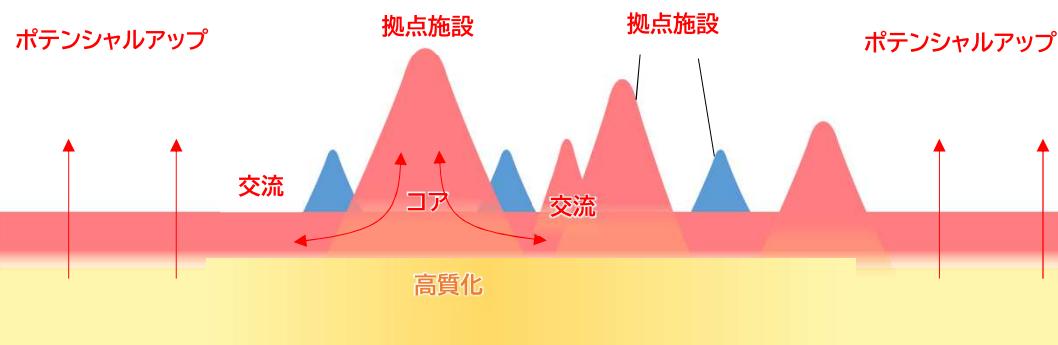
震災やコロナなどにより激減した

観光客回復に向けた対応

2018年(平成30年)時に相当する20万人まで観光客数を回復

拠点機能の再編

各拠点が有する機能を強化し、交流という様々なヒト・コト・トキを介するまちづくりのポテンシャルアップ



拠点形成事業の概要

鶴川地区と穂別地区の連携事業

- ・かわまちづくり、自転車ネットワーク形成
- ・地域公共交通の利便性増進 ほか

中央通り活性化事業

町民×事業者×観光客の拠り所(寄り所)

- ・空き家の活用に向けたリノベーション(継続)
- ・まち歩きしたくなるような環境づくり(継続)
- ・コト消費や6次産業化
- ・職住支援、二地域居住支援
- ・エリア回遊に向けたモビリティの検討

防災・災害対応の拠点

胆振東部消防組合
消防署鶴川支署

公助共助防災訓練 事業

町民

事業者

観光客

町民

事業者

GX、DXの技術、官民連携事業スキーム
新たな民間事業者との連携、投資の呼び込み

魅力をタウンプロモーションとして発信

エリア高質化
ポテンシャルアップ

旧駅跡地活用事業

町民×町民の拠り所(寄り所)

- ・新たなコミュニティ拠点となる施設整備
- ・旧布施旅館の古材を活用したデザインづくり
- ・歴史・文化等の展示ギャラリー
- ・新たな垂直避難場所としての活用

観光客

エリアデザイン
対象エリア学びの拠点
ム・ペツ館

夢叶輪公営塾事業

賑わいイベント交流の拠点

中央通り

健幸拠点

ぽぽんた広間
(ぽぽんた市場)起業チャレンジの拠点
むかわ町観光協会

起業チャレンジ事業

旧駅跡地 施設

住民の集い・活動の拠点

リニューアル事業

町民×事業者×観光客の拠り所(寄り所)

- ・ぽぽんた市場との統合再編
- ・大規模修繕の実施
- ・物販飲食等の中央エリアの構造再編
- ・運営方法の見直し
- ・四季の風(ホテル)増設
- ・指定避難所の再指定
- ・穂別地区の地域資源との相乗的連携

ぽぽんた再編事業

町民×町民の拠り所(寄り所)

- ・四季の館との統合再編

7 道の駅むかわ 四季の館のリニューアルについて

道の駅 四季の館 リニューアル テーマ

鶴川と穂別の有する魅力を活用し、むかわの「らしさ」の拠り所(寄り所)となるエリアデザイン中心の観光交流施設を創る

進化① 機能や構造の混在・分離を整序化し、観光交流拠点として町民と観光客が交わる機能配置と空間配置

進化② 観光客と地元事業者が観光交流できる好循環が生まれる利用・運営

【課題】

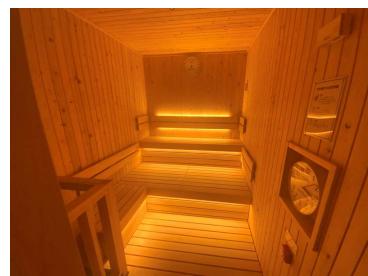
四季の館は1997年(平成9年)のオープンから間もなく30年を迎える中、施設全体の機能・設備の見直し検討が必要になっている。

既存施設のリニューアルプラン

既存建物の構造躯体は活かしつつ、温浴、物販・飲食・観光案内・24時間トイレ等の機能を内部レイアウト変更等を含めて刷新し、宿泊機能の強化、温浴施設の魅力化を図ります。

温浴施設の魅力化

温浴施設の機能強化のため、温浴施設のリニューアル等による魅力化の向上を図ります。



観光案内の魅力化

- 現在、売場として占有されているエントランスホールは、元々の機能である「来訪者を迎える」ための空間として再構成を行います。
- エントランスホールには観光案内機能と合わせて「むかわに来た」ことが感じられる空間を目指します。
- むかわ竜やししゃもなど、まちの地域資源の魅力を発信できる設えを創出します。(恐竜の全身骨格レプリカやむかわの風景／ししゃもの展示や観光情報の発信)
- 併せて中庭を挟む通路や、インフォメーションラウンジ(現在の憩いの広場)等に来訪者が休憩できるスペースを整備し、ゆっくりとした滞在をおもてなす空間に再編します。

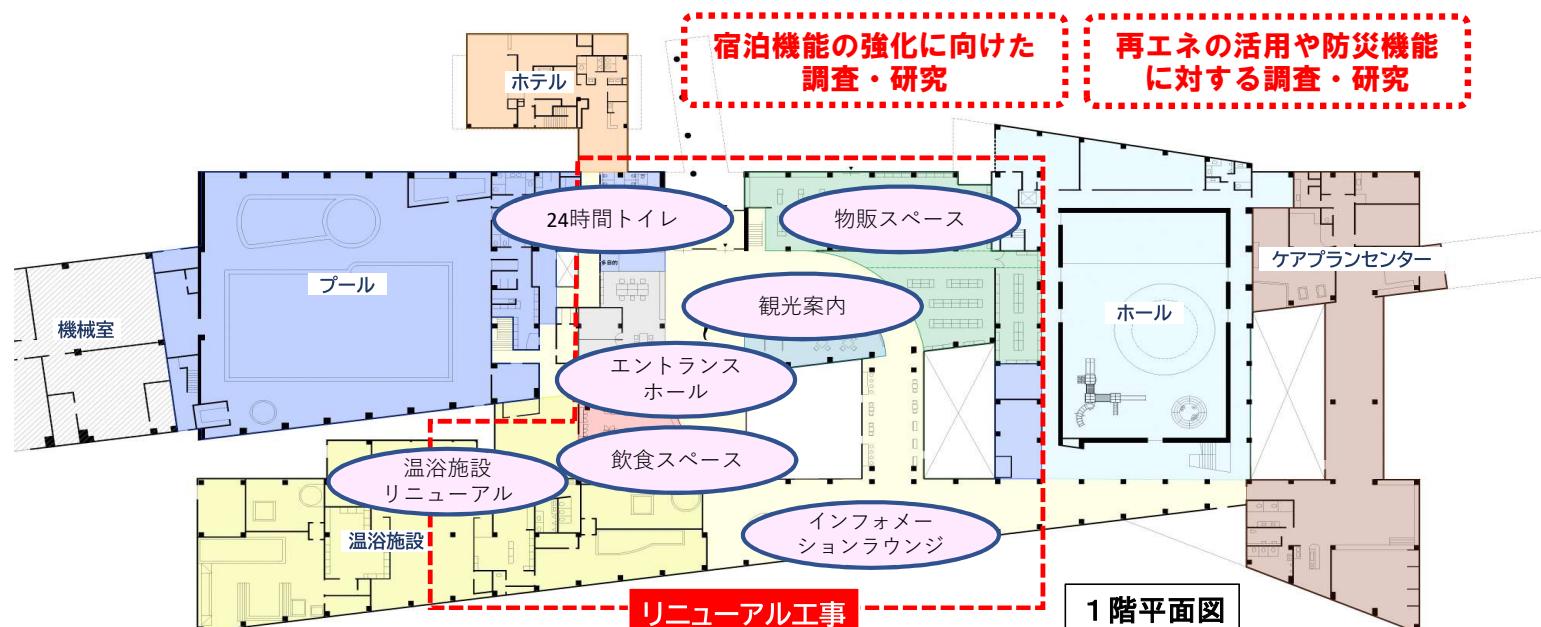
【エントランスのイメージ】



【フードコート等の飲食店】

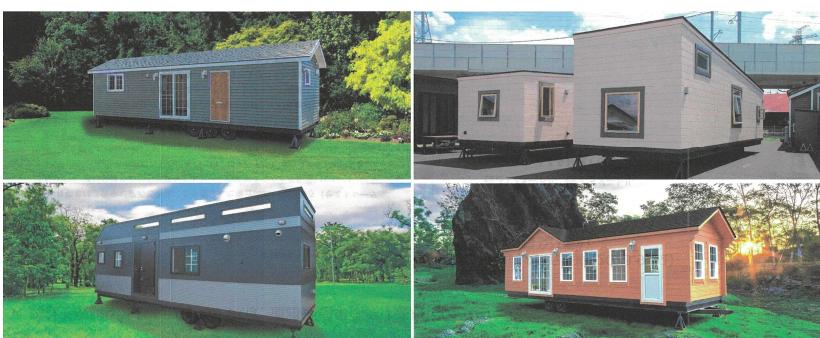


【中庭を臨む休憩スペース】



トレーラーホテルの設置

現状で不足しているシングル利用のホテルについては、トレーラーホテルを活用したプランに変更し、5台のトレーラーホテルの設置を想定しています。



8 駅跡地利用について

旧駅跡地 利活用テーマ

歴史と現代が融合し、地域社会としてのコミュニティの場として、未来を拓く人が生き続ける拠り所(寄り処)

機能	諸室	配置の考え方
子ども一時預かり	事務室	子ども一時預かり機能の受付となるように中央通側に配置
	プレイルーム	コア機能として建物の中心に配置し、一体で使用することができる屋外広場を隣接して整備
	保育室	様々な年齢の子どもに対応できるようにプレイルームより小規模な諸室を整備、必要に応じて地域活動や生涯学習にも使用可能
地域交流	歴史・文化等のギャラリー	気軽に立ち寄りやすいように中央通りから見える位置に配置し、町の歴史や文化等の情報を発信
	サロン(カフェ)	ギャラリー、屋外広場と隣接し、イベント時には一体での利用も可能 リモートワークなどにも対応できるように電源・Wi-Fiを整備
避難	屋上	津波発生時には屋上階への垂直避難(5m上)を行える計画とする

【旧駅跡地施設とその利用イメージ】



駅遙資材の活用

建具:エッキングガラスの入った建具など
特徴的な部材を内部に使用
木材:交流カフェの椅子・テーブルに木材を活用

